

Ryoko Kikuchi

ダブル・ディグリー修得の為、フランスのレンヌにあるビジネススクールに1年間留学しました。留学中の授業には講義だけでなく、ほとんどの授業にグループワークやプレゼンテーションが含まれていました。フランスを中心に様々な人々との議論や活動を通して、宗教や文化を含む広い視野で物事が見られるようになりました。

フランスに留学して一番驚いたのは、日本に興味を持っている人や、日本語を勉強している学生がたくさんいたことです。初登校日に「こんにちは、日本人ですか？」とドイツ人の男の子から日本語で話しかけられた時はとても驚きました。全く面識のない学生から突然日本語を教えてほしいと言われたことも何度かあります。独学で日常会話レベルの日本語をマスターしている学生が何人もいたり、なかには、医学試験のストレス解消の一環として日本語を勉強している学生がいたりしました。このような学生たちとあって大きな刺激を受けました。

留学したことでこのような経験ができ、今後、世界を視野に入れて私自身が目指していくべき新たな目標ができました。


2008卒セリク奨学金受給者
ヘンケルジャパン
(ジュワルツコフプロフェッショナル)






2度のフランス短期留学

Hiromichi Sudo





私は2005年と2006年にフランスに短期留学しました。



もともと、学生の中に海外に行きたいという思いは強くありました。その理由は、歴史的・政治的・文化的にヨーロッパの中心地であるフランスを自分の目で見て学びたいというような固いものではなく、ただ単に映画の中に出てくるパリの街並み、陽気な雰囲気への憧れ、きれいな女性とセーヌ川沿いのカフェでクロワッサンを食べ、同じ年代の学生と楽しく遊びたいといったものでした。

実際、1度目の留学では語学学校に通いフランス語の勉強もしましたが、そこで知り合った国籍の違う人々と食事をしたり、週末は旅行に行ったりと、とにかく日本では味わえないことを経験しました。もちろん、その時はほとんどフランス語を話すことはできませんでしたが、語学学校に通っている他国の人もみんなフランス語を勉強しに来ているので、レベルの低いフランス語と高度なジェスチャーといったコミュニケーション方法のおかげで充実した1カ月を過ごしていました。

2度目の留学では1回目には経験できなかった”同年代のフランス人と遊びたい”という思いを胸に秘め出発しました。フランスに行って語学学校に通っていても同年代のフランス人と出会う確率はそれほど高いものではありません、そこで私は、大学で日本語を学んでいる生徒を見つけようと、パリ第7大学の授業に参加し、たくさんの同年代のフランス人と友達になり、私はレベルの低いフランス語、相手はレベルの低い日本語、そしてお互いレベルの高いジェスチャーを使いながら将来の夢を語ったり、好きな歌、俳優、映画など日本で生活するような感覚で1カ月を過ごしました。もちろん、芸術の都パリに滞在していたときは美術館巡りや歴史的建造物の見学、また当時20歳の僕にはちょっと敷居が高かったように思えますが、ムーラン・ルージュでショーを見たりと、フランス語を勉強すること以上に異文化を思いっきり肌で感じ、自分自身の成長の繋がったと思います。



私の2度の留学は、とにかく海外に行きたいという思いが強すぎて学力をつけるというものではなかったかもしれませんが、しかし、現在私は教育の現場で働いていますが、長期休みを利用し、フランス語夏季集中講座と銘打って学生にレベルの低いフランス語と高度なジェスチャーを教えたりしています。大学での経験がなければ今の自分がやっていることもできなかったらしく、今の自分もなかったと思います。留学での経験が役に立つことは、10年後かも20年後かもしれませんが、ですが、学生時代の経験は一生自分のなかで輝き続けるものになるはずです。今、留学することを迷っている人、とりあえず飛び立ってください。不安になってもきっと高度なジェスチャーが助けてくれます。

Bon Courage.



ルノー財団・パリ国際 MBA プログラムで得たもの

明治大学商学部卒業直後の2005年7月から2006年6月までの1年間、ルノー財団、パリ・ドフィーヌ大学、IAE・パリ・ソルボンヌ大学の主催する、MBAプログラムに参加した。このプログラムは、ルノー財団が学生を募集する、日本、韓国、ブラジル、ロシア、イランの学生たちと、フランスに於いて一緒に勉強をするものだ。

1年間のプログラムは、語学研修、研修旅行、大学での講義、ルノー社でのインターンという密度の濃い内容で構成されている。長期留学は初めてであったため、とりわけ最初の頃は語学に関して不安があった。しかし、その不安は同じ目標のもとに集まった仲間たちと課題を作成し、課題発表を経ていくうちに少しずつ解消されていった。毎日とても忙しい充実した生活であったが、忙しい中にも友人たちと一緒に出かけるなど、切り替えの重要さもしっかりと学んだ。MBAプログラムで勉強した内容とその1年間の苦楽を共にした友人たちは、一生の宝である。



avec des amis



**Qu'est-ce que c'est,
ルノー財団・パリ国際MBAプログラム?**

ルノー財団・パリ国際プログラムは、フランスのルノー財団と日本の13大学との協定に基づいて、パリ第1および第9大学において、1年間でMBA学位を修得できる共同学位・MBAプログラムです。プログラム詳細についてはルノー財団のホームページ (<http://www.fondation.renault.com/>) を、学内選考などの情報については国際交流センターのホームページをご覧ください。